

**令和7年度**

**「運営に関する計画」**  
**（最終評価・学校関係者評価）**

**大阪市立中大淀幼稚園**

**令和8年2月**

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 安定した家庭生活の中で、子どもたちは大切に育てられている。子どもたちは、一人一人の思いを出しながら園生活を楽しんでいる。しかしながら、よく見知った環境でも人的・物的環境の多少の変化を感じ取りやすく、不安定になる姿が見られる。  
そのため、今年度も引き続き、子どもたちの心と体が弾む体験や直接体験を積み重ね、心豊かな育ちにつながるようにする。
- 子育てに対する関心が比較的高い地域ではあるが、家庭教育に対する考えが多様である。特に、心地よい挨拶の仕方やお話の読み聞かせを通して、親子のふれあいが深まるよう、実態に即した指導を丁寧に行う。
- 大淀小学校の1年生を中心に、全学年の児童や教職員との交流を継続してきた。また、地域の方々や保育所児、未就園児等、様々な年代の人たちと日々の生活や新たな交流活動を通して関わることを楽しんだり、親しみや憧れの気持ちを感じたりすることにつなげていく。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの安全を考えた防災、減災・安全教育を行っていますか」の項目について「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「お子さんはあいさつや返事をする心地よさを感じていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「幼稚園は、一人一人の子どもを大切にされた教育を行っていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な経験ができるように環境を整えたり、工夫したりしていますか」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「お子さんは、幼稚園に行くことを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「お子さんは好きな遊びを見つけ、のびのびと遊ぶことを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケートで、「お子さんは、絵本に親しみを持ち、読んだり見たりすることを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切に、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する割合を85%以上にする。

○保護者アンケートで、「幼稚園は園の保育内容や取組を分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの安全を考えた防災、減災・安全教育を行っていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「お子さんはあいさつや返事をする心地よさを感じていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「幼稚園は、一人一人の子どもを大切にした教育を行っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な経験ができるように環境を整えたり、工夫したりしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「お子さんは、幼稚園に行くことを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「お子さんは好きな遊びを見つけ、のびのびと遊ぶことを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケートで、「お子さんは、絵本に親しみをもち、読んだり見たりすることを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切に、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- 保護者アンケートで、「幼稚園は園の保育内容や取組を分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

10項目すべての保護者アンケートにおいて、肯定的な回答の割合が85%以上であった。そのうちの7項目については、肯定的な回答の割合が100%であり、保護者が子どもの成長を感じ、教育活動に理解を示していることがわかった。

- 昨年度からの課題であった『あいさつ』と『絵本やお話の読み聞かせ』について、年度当初の保護者への意識調査によって、家庭での取り組みや保護者自身の考えを知ることができた。それを踏まえて、教師が園での楽しい活動や個別に指導を行うだけでなく、保護者が無理なく絵本の読み聞かせを行うことができるように、園行事として『親子ふれあい絵本タイム』を設定した。親子での絵本の読み聞かせを通して、改めて親子で向き合い、コミュニケーションを取ったり、さらに親子で関わる安心感をもたせることにつながった。

大阪市立中大淀幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】 1-①</b> <b>学校園の年度目標</b> ○保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの安全を考えた防災、減災・安全教育を行っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 災害時及び非常変災時に備えた訓練をしたり、子どもの安全意識が高まるような指導方法を工夫したりする。	A
指標 ・年間計画を立案し、年10回避難訓練を実施する。（預かり保育時も含む） ・関係諸機関や家庭と連携し、年2回啓発活動や引き渡し訓練を行う。 ・大淀小学校と連携し、年2回避難訓練や職員研修を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【年度目標】</b> について ○保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの安全を考えた防災、減災・安全教育を行っていますか」の項目について、肯定的な回答が100%だった。
<b>【取組内容】</b> について ○安全教育についての年間計画（年10回）を立案し、2月時点で年12回の避難訓練を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で教育活動施設における事件や事故が起こった際、教職員間でその都度話し合いや情報共有をした。自園ならどのように対応するか（避難誘導、留意点等）共通理解したり、避難訓練の想定を変更したりすることで、教職員の安全管理への意識が高まり、指導につなげることができた。</li> <li>・避難訓練やクラスの実態に合わせた安全教育に関する指導を重ねたことで、子ども自身が安全意識をもち、進んで行動するようになった。</li> </ul>
○保護者引渡し訓練、啓発活動（大淀警察、北消防署）を年4回実施した。 <p>1月の引渡し訓練では、“地震発生時に幼稚園のパーゴラが被害を受け、正門側から園に入ることができない”という初めての想定で訓練を行った。前回の反省を活かし、担任がより手早く引渡し者を確認できるよう、引渡し名簿を作り変えたことで、以前よりも引渡しをスムーズに行うことができた。</p> また、新たな想定での訓練を行ったことで、保護者も教職員もその場で臨機に対応することや、そ

の場での気づきが多くあり、改めて安全意識を高めることにつながった。

○大淀小学校と連携し、年3回避難訓練や職員研修を実施した。

9・1月には南海トラフ地震や大津波警報発令時を想定した合同避難訓練を実施した。訓練後の児童・園児向けの振り返りにおいて、小学校教諭が視覚物（teams）を活用し、地震の怖さや命の大切さを知らせたことで、園児にもよく伝わった。

#### 次年度への改善点

○1学期に実施している小学校の避難訓練（火災）に参加する。

まだ園生活に不慣れな園児も児童や教職員と避難することで、真剣に訓練に取り組む空気感を感じられるようにする。また、教職員が1学期の子どもの実態に合わせた指導方法を工夫できるようにする。

○南海トラフ地震を想定し、教職員が地震対応についての研修を受け、園舎の構造・子どもの実態等を踏まえてより安全な対応をとることができるよう、共通理解を図る。

○幼小の教職員で不審者対応訓練時の対応の仕方や合図等を共通理解し、幼稚園でも同様に必要な方法や合図を取り入れ、校園内で園児・児童が安全に生活できるようにしていく。

○年度当初、保護者に配布する引き渡しカードの内容を再検討し、より見やすく、分かりやすい様式に作り変える。

大阪市立中大淀幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】 1-②③</b></p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○保護者アンケートで、「お子さんはあいさつや返事をする心地よさを感じていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p> <p>○保護者アンケートで、「幼稚園は、一人一人の子どもを大切にされた教育を行っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>いろいろな人とあいさつを交わしたり、返事をしたりする心地よさを感じる子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつに関する実態把握をし、一人一人に合った援助について学期に1回話し合い、指導内容や指導方法を検討する。</li> <li>・教職員以外のいろいろな人とあいさつをする機会を月2回もち、心地よさを感じられるようにする。</li> <li>・保護者や異年齢の友達と学期に1回『あいさつ隊』を行う。</li> </ul>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>一人一人が自己発揮しながら、のびのびと遊ぶことを楽しむ。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内委員会を学期に1回行い、教職員で子どもの実態を共通理解する。</li> <li>・園内特別支援教育研修会を学期に1回行い、環境の再構成や具体的な指導方法を学び合い、即時活用する。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【学校園の年度目標】</b></p> <p>○保護者アンケートで、「お子さんはあいさつや返事をする心地よさを感じていますか」の項目について、肯定的な回答が91.2%だった。</p> <p>○保護者アンケートで、「幼稚園は、一人一人の子どもを大切にされた教育を行っていますか」の項目について、肯定的な回答が100%だった。</p> <p><b>【取組内容1-②】</b></p> <p>○あいさつについて、子どもの実態把握だけでなく、保護者の意識調査を行った。保護者の『あいさつをする心地よさ』に対する捉え方が様々であることがわかったため、「あいさつをしようとしている」「気持ちを相手に向けている」など、子どもの実態を保護者に知らせるようにした。また、教職員間で子どもの実態を日常的に話し合い、一人一人に寄り添い続けることで、自分な</p>	

りにあいさつをしようとする姿や、声に出してあいさつする姿が増えた。

○幼小の教職員以外の人たちと関わる機会を月2回以上もち、その時々に合わせてあいさつを行うことができた。徐々に変容してきた子どもの姿から、様々な人との関わり楽しさが、相手への親しみや安心感となり、「(自分から) あいさつをしよう」という子どもの意欲的な姿につながっていきのどとわかった。

- ・小学校教諭や児童、保育所児との関わりを続けたことで、親しみをもち、進んであいさつする姿が見られるようになった。
- ・『えいごであそぼう』では、担当の先生に英語であいさつし、活動を存分に楽しんでいた。決まったあいさつだけではなく、「待ってたよ」「また遊ぼうね」「また来てね」など、子どもたちが思いのこもった言葉を自然と発するようになった。
- ・各指導時（保健指導、アスレチックパーク等）には、先生やコーチとの関わりを大切に感じ、教えてくれたことや関わってもらったことへの感謝の心が育つように、「よろしくお願いします」「ありがとうございました」のあいさつを行ってきた。あいさつすることを意識が高まり、自らあいさつする子どもが増えた。

○『あいさつ隊』（登園してくる友達をあいさつしながら迎える当番）を5月、11月に行った。保護者があいさつをする姿を見て、子どもたちも一緒にあいさつすることができるようになってきた。さらにその姿を登園してくる子どもたちが見て、保護者と一緒に気持ちよくあいさつをするようになった。

- ・今年度は、異年齢クラスが関わる機会が多かったため、4歳児の参加を2学期からに早めた。4歳児も期待をもって参加し、5歳児に倣って元気にあいさつをすることができるようになってきた。2月末から3月初旬には、今年度最後の『あいさつ隊』を実施する予定である。

### 【取組内容1-③】

○園内委員会を2月時点で計3回実施した。

個別の指導計画について教職員で話し合い、具体的な指導内容を日頃の保育で活かせるようにした。また、担任と支援担当教諭、保護者で教育支援計画を作成し、子どもの育ちや今後の具体的な指導方法について、学期ごとに共通理解を図ったうえで支援を行った。

その他、個別の指導計画にある子どもの育ちに関する目標を一つに絞り、学期ごとに振り返りを行ったことで、教職員が同じ意図をもって支援することができ、子どもの変容につながった。

○園内特別支援教育研修会を5回実施した。

外部の特別教育指導員から、環境の再構成や具体的な指導方法を教えていただいた。各クラスで実践し、次の研修会で報告や改善点の検討・課題の共有を行ったことで、その時に応じた適切な指導を行うことができた。

- ・行事や活動時期に合わせて、保育室から保育室前廊下を行き来しながら遊べる環境を整えたことで、支援を要する子どもの居場所づくりができた。
- ・子どもの状態やその日のコンディションに合わせて、声かけや対応方法を教職員で共通理解し、一人一人に合った支援を行ったことで、子どもの発達や育ちにつながった。
- ・生活発表会等、各行事に不安を抱く子どももいたが、教師が普段通り一緒に活動を楽しむ姿を

見せるようにしたことで、子どもが安心して活動に参加できるようになった。そして、行事等でも、普段と同じ姿を保護者に見てもらうことができた。

- ・それぞれの子どもにあった支援方法を試行錯誤したことで、子どもにとってできることや認められる機会が増え、様々な活動に自信をもって取り組むことができるようになった。

○大淀小学校の訪問支援を行っている大阪教育大学の先生をご紹介いただき、幼稚園の教員向けに園内研修会を行った。就学前の引継ぎや申し送りのポイントについてご教示いただいた。

#### 次年度への改善点

○年度当初に子どもの実態把握に合わせて保護者の意識調査も行い、目の前の子どもや保護者に合ったあいさつの指導や啓発活動を行う。

○身近に関わる人たちに親しみをもち、あいさつする心地よさを感じられるように、子どもの実態に合わせた楽しい活動や関わりの内容を計画する。

○園内委員会の際に、さらに長期・短期目標の達成を目指せるよう、子どもの変容やそれに伴う課題・今後の具体的な指導方法を焦点化して話し合う。また、教職員が日々無理なくできる支援方法を継続して行うことで、子どもの育ちにつなげていく。

○園内特別支援教育研修会を継続して行い、進学・進級を意識した指導方法について助言いただく。特に担任教諭の幼児理解を助け、教職員がチームとして全園児の育ちを支えることができるようにする。

大阪市立中大淀幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】2-①</b>  <b>学校園の年度目標</b>                      ○保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な経験ができるように環境を整えたり、工夫したりしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。                      ○保護者アンケートで、「お子さんは、幼稚園に行くことを楽しんでいますが」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】                      就学前教育カリキュラムを活用しながら、子どもが豊かな経験を積み重ねることができる環境を整える。</p> <hr/> <p>指標                      ・子どもの実態や興味・関心、時節に合わせた環境づくりについて、月2回検討会を行う。                      ・就学前教育カリキュラムを活用した保育実践について、学期に1回検討会を行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【学校園の年度目標】</b>                      ○保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な経験ができるように環境を整えたり、工夫したりしていますか」の項目について、肯定的な回答が100%だった。                      ○保護者アンケートで、「お子さんは、幼稚園に行くことを楽しんでいますが」の項目について、肯定的な回答が100%だった。</p> <p><b>【取組内容①】</b>                      ○子どもの実態に合わせた環境づくりについて、月2回以上話し合い、保育実践に活かした。                      ・子どもが遊びや環境に興味・関心をもち、主体的に遊べるように、子どもの実態や保育のねらいに合わせて環境づくりを工夫した。育ちに合わせて遊具を精選したり、衣装・素材や製作道具、新たな刺激につながる遊具や楽器など、様々な環境に身近に触れたり、子どもが「やってみたい」と活動を楽しんだりできるようにした。                      また、教師や友達とイメージを共有したり、目的をもって遊んだりできるように環境づくりを工夫したことで、その後の保育や行事などにも安心感をもち、子どもが自ら楽しんで活動する姿が見られた。                      ・季節を感じられるよう、栽培活動を行った。栽培物の世話や収穫をすることで、実の大きさや色合い等、その生長に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりしていた。                      また、チューリップの球根を植えることで、花が咲くことだけでなく、花が咲く時期に進学や進級をすることへのイメージもたせ、期待を膨らませることができた。</p>

○子どもが豊かな経験を積み重ねることができる環境を整えた。

- ・ 5歳児が、新梅田シティの里山で収穫したサツマイモの大きさ分けや数を数えたり、4歳児とおいも屋さんごっこをしたりと一緒に楽しんだ。園外活動で終えることなく、園内でも存分に遊びを楽しむことができるような環境を整えた。
- ・ 4歳児は、生活発表会でパン屋さんを題材にした絵本で劇遊びをした。実際に強力粉やイースト菌を使い、パンづくりをした。小麦粉の感触やパンが焼ける匂いを実際に体験したことで、子どもたちの表現の幅が広がった。
- ・ 5歳児が合奏をしている音や歌声を4歳児が聴き、音楽的な遊びへの関心が高まった。5歳児に教えてもらいながら一緒に楽器遊びを楽しんだり、5歳児の歌を4歳児が真似て歌ったり、一緒に歌う経験を重ねたことで、さらに憧れの気持ちと進級への期待と直接体験を重ねていくことができた。

○就学前教育カリキュラムを活用した保育実践について、学期に1回以上検討会を行った。

- ・ 1学期に2回、実践記録を取り、子どもの姿から子どもに育てたい力や教師の働きかけについて分析した。
- ・ 年に2回、園内研究保育を実施し、教育指導員から指導助言をいただいた。子どもの姿や興味・関心から今後の保育の見通しをもち、子どもの実態や育ちに合った遊びや活動、環境づくりについて話し合い、事後の保育に活かすことができた。
- ・ 日々の保育や行事の取り組みについて、クラスのねらいや担任の思い、取り上げる教材について教職員間で話し合った。また、教職員全体で日々の保育や行事の振り返りを行い、多面的に意見を出し合うことで、その後の保育につなげることができた。

#### 次年度への改善点

- 次年度の子どもの実態や保育のねらいに合わせた環境について、新たに教職員間で話し合ったり、教材研究を深め、活用したりする。
- 園舎の構造をうまく利用し、さらに子どもが主体的に遊びを楽しめるような環境づくりを工夫をする。
- 子どもが豊かな経験を積み重ねることができるように、次年度の子どもの実態に合わせた環境づくりや園内外の活動内容、園外保育先の検討を行う。

大阪市立中大淀幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】 2-②③</b>  <b>学校園の年度目標</b>                      ○保護者アンケートで、「お子さんは好きな遊びを見つけ、のびのびと遊ぶことを楽しんでますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p>	A
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】                      外国語や外国の文化に楽しみながらふれ、親しみをもつ。</p> <hr/> <p>指標                      ・学期に1回、小学校教師やいろいろな人との関わりを通して、外国語や外国の文化にふれる機会をもつ。                      ・学期に1回、絵本や遊びを通して、外国語や外国の文化にふれ、親しみをもつ。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】                      様々な体を動かす遊びを通して、体を動かすことを楽しいと感じる子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標                      ・年4回、『子どもの体力向上推進事業』の取り組みを実施する。                      ・週1回、体操やダンス、ふれあい遊び等、体を動かす遊びを取り入れる。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>【年度目標】</b>について                      ○保護者アンケートで、「お子さんは好きな遊びを見つけ、のびのびと遊ぶことを楽しんでますか」の項目について、肯定的な回答が100%だった。</p> <p><b>【取組内容①】</b>                      ○『えいごであそぼう』について                      ・6、7、12月に実施し、3月にも実施予定である。                      子どもたちがわかりやすく、楽しく英語に触れることができるよう、体をモチーフにした歌や、動物・季節に合わせた遊びが中心だったため、子どもが英語を身近に感じ、興味をもつ姿が見られた。回を重ねることで、小学校教師への親しみも増し、さらに英語に興味をもって楽しむことができた。</p> <p>○学期に1回以上、外国文化にふれる機会をもつことができた。                      ・クラスの外国籍の子どもとの関わりが広がるにつれて、子どもたちが友達の母国や言語について関心をもつようになった。</p>	

誕生会で、誕生児が保護者にお祝いメッセージをもらう時に、外国籍の子どもの保護者が母国語でメッセージを伝えてくれた。その姿をタイミングよく教師が取り上げ、まわりの子どもたちがその言語について関心をもつことができるよう言葉がけを行った。

また、仲良くなるにつれて外国籍の子どもが母国語で話している時に、「母国ではどうやって言うの？教えて」と訊ねるようになり、日常の中でも楽しく外国語やお互いの文化に触れることができた。

- ・外国籍の子どもが、安心して園生活を送ることができるように、翻訳機を使ってこまめに活動内容を知らせたり、絵で見てわかりやすいような教材を選んだりした。それによって、教師や友達に日本語や母国語で話すことが増えた。また、外国籍の子ども同士で母国語を話す姿も見られるようになった。

### 【取組内容②】

○2月時点で計7回セレッソ大阪のアスレチックパークを実施した。

活動を通して、様々な動きを体験したことで、体を動かす遊びが好きな子どもが増え、季節問わず毎日戸外で体を動かして遊ぶようになった。また、少しずつボディバランスが整ってきた。

- ・年度当初は体を動かすことに対して、恥ずかしがったり、不安があったりした子どもたちも、活動を通してコーチに親しみをもち、自ら体を動かす遊びに参加したり、体を動かすことへの楽しさを感じたりしていた。コーチに運動会につながる内容や、普段の遊びに取り入れられるルールのある遊びを取り入れてもらうことで、日常的に子どもから、「だるまさんがころんだ」やりたい！」「鬼ごっこしよう」という声が聞こえるようになり、体を動かすことの楽しさを感じていた。
- ・12月のアスレチックパークでは、他園の教師も参加して教員実技研修会を実施した。どの園でも普段から楽しんでいる“鬼ごっこ”をテーマに、鬼ごっこを通して様々な体の動きを身につけたり、友達との関わりが広がるようなルールを設定したりして、教師の学びが深まるような指導を受けることができた。

○年間を通して子どもの興味や季節にあった体操を取り入れ、体を動かして遊ぶことを楽しんだ。

体を動かすことに苦手意識をもっていた子どもも教師や友達と一緒に参加することで、遊びに参加することができるようになった。

- ・1、2月には、マラソンごっこを実施した。児童がマラソン（かけ足チャレンジ）をしている姿を見て真似たり、5歳児は1年生と一緒に走ったりした。寒い季節でも、体を動かすと温まることを知り、園庭でも寒さに負けず元気に遊ぶ姿につながった。

### 次年度への改善点

○今後も小学校や小学校教師と連携し、子どもの実態に合わせた内容の『えいごであそぼう』が無理なく実施できるようにする。

○次年度も外国語に触れ、多様な文化に興味をもつことができるような機会をつくる。また、外国の文化だけでなく、日本の文化や子どもたちが住む大阪についても知ることができるように保育内容を工夫する。

○子どもが体を動かす楽しさをさらに感じたり、教師が体を動かす遊びや育ちについて学んだりできるように、アスレチックパークを実施する。また、活動の中で楽しんだ遊びを日頃の保育に積極的に取り入れる。

大阪市立中大淀幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】2-④</b>  <b>学校園の年度目標</b>                      ○保護者アンケートで、「お子さんは、日々の生活の中で健康に過ごそうとする気持ちをもっていると感じますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】                      基本的な生活習慣を身につけるために、5つの領域『清潔・睡眠・衣服の着脱・食事・排泄』に関わる内容の指導を行う。</p> <hr/> <p>指標                      ・基本的な生活習慣を身につけるために、学期に1回チェックシートを作成し実施する。                      ・食育や生活習慣、体力向上につながる保健指導を月1回行う。                      ・実施した保健指導の内容や幼稚園の取り組みをほけんだよりやホームページで保護者に、月2回知らせる。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【年度目標】</b>について                      ○保護者アンケートで、「お子さんは、日々の生活の中で健康に過ごそうとする気持ちをもっていると感じますか」の項目について、肯定的な回答が94.2%だった。</p> <p><b>【取組内容②】</b>                      ○基本的な生活習慣を身につけるために、学期に1回の健康生活に関するチェックシート、長期休業中は『けんこうカレンダー』を作成し実施した。また、長期休業明けには、保護者に『健康調べ』を行い、家庭での過ごし方について把握した。それらのチェックシート等の結果や保護者のコメントをもとに、養護教諭や教員から保護者に声をかけたり、健康な生活習慣を身につけることができるように話し合ったりした。</p> <p>○保健指導を月1回以上実施した。                      ・各クラスの実態に合わせて担任教諭と指導内容を検討し、季節や行事に合わせた内容の保健指導を実施したことで、子どもに基本的な生活習慣が身についてきた。                      ・毎月、「手洗い・うがい・爪・ハンカチとティッシュの持参」を確認するぴかぴかしらべを行った。結果を保護者にも共有し、家庭でも啓発できるようにした。ぴかぴかしらべを繰り返すことで、子ども自身が日頃からハンカチやティッシュの持参を意識するようになった。                      ・保健指導後、子どもや保護者に個別に声かけを行い、生活習慣の改善を図ったことで、子どもの意識が少しずつ変化し、正しい生活習慣が身につき始めた。</p>

○実施した保健指導の内容や幼稚園の取り組みについて、月2回以上知らせた。

- ・毎月月末に配布する『ほけんだより』で、保護者に保健指導の内容を知らせたことで、指導内容を親子で話し、家庭でも継続して行くきっかけづくりになった。
- ・ホームページに保健指導を受ける子どもの姿やその内容をその都度投稿し、保護者や地域に発信した。
- ・北区主催の『食育祭り』で、食育の取り組みに関する掲示物（園内で季節野菜の栽培や収穫の様子、近隣地域でのサツマイモの苗植えや収穫の様子、三色栄養の保健指導、栄養指導、弁当参観の様子等）を展示し、広く知らせるようにした。

#### 次年度への改善点

- 基本的な生活習慣を習慣化するために、次年度の子どもの実態に合わせた内容のチェックシートを配布し、家庭と連携しながら保健指導を実施していく。
- クラスの実態に合わせた内容の保健指導を担当教諭と検討し、実施時期や時間帯等を調整しながら行う。また、子どもが楽しく指導内容に興味をもって参加し、良い習慣を身につけることができるように、指導方法や教材を工夫する。
- 今後も紙面やホームページを利用し、保健指導や幼稚園の取り組みを保護者に伝え、家庭啓発につなげていく。
- 保護者の食育に関する意識調査を行い、子どもの健康を考えた食育活動が子ども・保護者・教職員で無理なくできるように、その内容を検討する。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】 3-①</b> <b>学校園の年度目標</b> ○保護者アンケートで、「お子さんは、絵本に親しみをもち、見たり読んだりすることを楽しんでますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】 お話や絵本に親しみをもち、見たり読んだりすることを楽しむ子どもを育てる。	A
指標 ・月2回、園内外の絵本貸出をしたり、図書館からの配本絵本等を見たりする。 ・週1回、教職員が絵本やお話の読み聞かせをする。 ・学期に1回、保護者と一緒に絵本遊び（ふれあい絵本貸出、保護者による絵本の読み聞かせ等）を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【年度目標】</b> について ○保護者アンケートで、「お子さんは、絵本に親しみをもち、見たり読んだりすることを楽しんでますか」の項目について、肯定的な回答が100%だった。
<b>【取組内容①】</b> ○週1回、園内の絵本コーナーや中央図書館の絵本貸出を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・借りた絵本の感想を絵本カードに書いてもらうことで、家庭での読み聞かせの様子や保護者とのあたたかいやり取り、子どもの興味・関心について知ることができた。</li> <li>・長期休業中は、絵本を2冊貸し出し、親子で絵本にふれる機会をつくった。</li> <li>・11月に大淀小学校の図書室で絵本貸し出しを行った。                          小学校教師に図書室について教えてもらったり、本の貸し出し体験をしたりすることができた。子どもたちは、本の種類やその数の多さやその環境に刺激を受けていた。また、図書館司書が園児の興味に合わせて絵本の読み聞かせをしてくれた。初めての図書室に緊張していた子どももいたが、小学校教師や司書の関わりに安心して過ごす姿が見られた。「1年生になったら、いろいろな本を借りることができる！」という期待も高まった。</li> </ul> ○週1回以上、担任や担任外教師（幼小含む）が、絵本の読み聞かせを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに、一つの物語の多様な絵本を順に読み聞かせたことで、お話の中の登場人物や展開、表現の違いに気づき、さらにその物語を楽しむ姿が見られた。</li> </ul>

○学期に1回ずつ計3回、小学校教師による絵本の読み聞かせを行った。

幼稚園教諭が用意した絵本の中から、小学校教師に数冊選んでもらい、読み聞かせを行った。その楽しさから、小学校教師に安心して関わり、親しみをもつことにつながった。

- ・1学期…“初めて関わる小学校の先生”として、絵本の読み聞かせを行った。  
教師の名前を覚え、日常生活の中で姿を見かけた時に手を振ったり、名前を読んだりする姿が見られた。
- ・2学期…幼小の教師で大型絵本『はらぺこあおむし』を歌い聞かせたことが、5歳児の運動会プログラム『むしたちのうんどうかい』につながった。
- ・3学期…2冊の読み聞かせ後、5歳児から「もう1冊読んでほしい！」と声上がり、急遽もう1冊読んでもらった。読んでもらって嬉しい、楽しい気持ちを自分の言葉で小学校教師に伝えることができた。

○学期に1回ずつ計3回、親子ふれあい絵本タイムや絵本修繕ボランティア活動を行った。

- ・担任教諭が子どもの実態や保護者に読み聞かせてほしいと願う絵本を選び、その中からさらに、保護者が子どもに読み聞かせたい絵本を選んだことで、担任教諭と保護者が共に子どもに心を寄せる貴重な活動になった。
- ・保護者の膝に乗ったり、一緒に絵本をのぞき込んだりしながら、ゆったりとした雰囲気の中で絵本の読み聞かせを行った。家庭で読み聞かせの時間を取りづらい家庭でも、ふれあい行事として行うことで、親子の愛着関係を深めるきっかけの一つになった。
- ・PTAが中心となり、絵本コーナーの絵本修繕を行った。1冊1冊丁寧に確認し、子どもたちがさらに絵本を読むことを楽しめるように、整理してくださった。毎回、たくさんの保護者の参加があった。

#### 次年度への改善点

○学期に1回、小学校教師に絵本の読み聞かせに来ていただき、子どもたちがいろいろな小学校の先生との関わりを楽しんだり、進学への期待や安心感につなげたりする。

○年に2回、小学校の図書室で絵本貸し出し絵本を行い、小学校の様々な施設について知り、関わる先生や児童に親しみをもてるようにする。

○学期に1回の親子ふれあい絵本タイムを継続し、子どもの安心感の向上や親子の絆を深めるきっかけづくり、保護者の子育ての喜びにつながるようにする。

大阪市立中大淀幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】 3 - ②③</b></p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○保護者アンケートで、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p> <p>○保護者アンケートで、「幼稚園は園の保育内容や取組を手紙やホームページ等で分かりやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>幼保小の交流活動に主体的に取り組み、一緒に活動を楽しむことで、小学校に親しみをもつ。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画を立案し、幼児や児童の実態に合わせて内容を修正しながら、より楽しく、関わりが広がるような活動になるように工夫する。</li> <li>・月に1回、幼保小の教職員で打合せを行い、それぞれのねらいを明確にもって活動に取り組む。</li> <li>・月に2回、幼保小の交流活動内容や子どもの姿について保護者に知らせる。</li> </ul>	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>在園児保護者、地域、未就園児保護者、その他の方々が、幼稚園の教育活動に興味・関心をもつことができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回、日々の幼稚園生活や取組について、ホームページで知らせる。</li> <li>・学期に1回、在園児保護者に向けて子どもの変容をわかりやすく知らせる。</li> <li>・月に1回、園舎周辺の掲示物等で園内の教育活動について知らせる。</li> <li>・学期に1回、北区役所での配布物等で園内の未就園児活動について知らせる。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【年度目標】</b>について</p> <p>○保護者アンケートで、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切にし、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について、肯定的な回答が100%であった。</p> <p>○保護者アンケートで、「幼稚園は園の保育内容や取組を手紙やホームページ等で分かりやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、肯定的な回答が97%であった。</p>	

### 【取組内容②】

- 年間計画をもとに、幼保小での交流活動を継続してきた。
  - ・各学年の交流活動では、園児と児童が関わり、お互いに親しみがもてるような内容（一緒に活動を楽しみ、交流しやすいようなゲーム遊びや体操等）を考え、実施することができた。
  - ・大淀保育所の5歳児を中心に交流活動を5回実施した。  
お互いが無理なく交流できるよう、園庭・校庭で好きな遊びやプール遊びを一緒に行ったり、幼稚園の作品展に所児を招待したり、日常的な活動を楽しむことができたようにした。
  - ・北区役所主催の大淀地区子育てイベント（大淀中学校多目的室において実施）では、大淀小学校、大淀保育所、中大淀幼稚園の教師が共に大型絵本の読み聞かせや手遊びを行い、地域の未就園児や保護者に対する子育て支援事業の一端を担うことができた。
- 年間を通して、幼保小の担当教諭が窓口となり、交流活動についての打合せや振り返りを行った。  
無理なく交流できるよう日程調整をしたり、メールや電話等で柔軟にコンタクトを取ったりしたことで、スムーズに活動を進めることができた。
- 降園連絡やホームページで、交流活動の取組内容や三者の具体的な関わりを取り上げ、知らせるようにした。また、個々の関わりやその中での変容を教職員から保護者に伝えたことで、交流活動を通した子どもの育ちや進学への期待につながる活動についての理解につながった。

### 【取組内容③】

- 子どもの姿や園内行事等をホームページで継続して知らせた。また、教職員が参加した研修についても取り上げ、保育の専門性や教職員の危機管理能力を高める姿が伝わるようにした。
- 1学期に2回、2・3学期に1回ずつ保護者会にて、今の幼児教育や子どもの現状に合わせたテーマ（子どもと保護者のウェルビーイング、安全教育について）で、パワーポイントを用いて知らせ、全保護者が共有できるようにした。
- 毎月月末と行事前に、クラスだよりを配布した。  
日々の姿が、子ども自身のどのような育ちにつながっているのかを具体的に明記し、幼稚園の教育活動への理解につながるよう工夫した。
- 掲示板や園内の壁面に、クラスだより（拡大版）や子どもの日常的な姿の写真、子育て支援事業についての掲示物等を掲示した。保護者や地域の人たちが足を止めて見たり、掲示内容について質問を受けたりする機会が増え、教育活動への関心の高まりを感じた。
- 北区役所が発行する広報誌に、幼稚園の概要や子育て支援活動について掲載した。北区の大阪市立幼稚園3園（中大淀・菅南・滝川幼稚園）が掲載内容を事前に打合せ、公立幼稚園の取組みが読み手に伝わるようにした。それらを見たことがきっかけで、問合せや未就園活動への参加者増につながった。

### 次年度への改善点

- 今年度の実施をもとに、幼保小交流活動の年間計画を立案し、次年度の園児・児童・所児の実態に合わせた活動内容を柔軟に計画できるようにする。
- 近隣やその他地域の未就園児保護者が幼稚園の教育活動に興味・関心をもつことができるよう、ホームページや掲示板、関係諸機関、地域の子育て支援事業所を通して発信し続ける。

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立中大淀幼稚園 学校協議会

## 1 総括についての評価

- 今年度の幼稚園の自己評価は妥当である。
- 子どもの姿や教職員の取り組み、保護者アンケート結果からも、年度目標は達成していると言える。

## 2 年度目標ごとの評価

### 年度目標【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの安全を考えた防災、減災・安全教育を行っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「お子さんは、あいさつや返事をする心地よさを感じていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、一人一人の子どもを大切にした教育を行っていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

- 達成状況の評価に関しては妥当である。
- 保護者アンケートにおいては、すべての項目で肯定的な回答が90%を上回っている。
- 挨拶をすることで、人と人がつながり、子どもたちの自尊感情や自己肯定感の高まりにもつながっていくと考える。
- 挨拶を子どもだけでなく、教職員・保護者が進んで行うことで信頼関係も生まれてくる。大人も挨拶を通して、地域に溶け込むぐらいの関係性になれば素晴らしい。
- 子どもが、さらに楽しく安全に過ごせるよう、園内の安全管理を徹底する。

### 年度目標【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な経験ができるように環境を整えたり、工夫したりしていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「お子さんは、幼稚園に行くことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「お子さんは好きな遊びを見つけ、のびのびと遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「お子さんは日々の生活の中で健康に過ごそうとする気持ちをもっていると感じますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

- 達成状況の評価に関しては妥当である。
- 保護者アンケートにおいては、すべての項目で肯定的な回答が90%を上回っている。

### 年度目標【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の保護者アンケートで、「お子さんは、絵本に親しみを持ち、見たり読んだりすることを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「幼稚園は遊びから学びへのつながりを大切に、小学校に親しみをもつことができるように、小学校との連携活動を工夫している」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の保護者アンケートで、「幼稚園は園の保育内容や取組を手紙やホームページ等で分りやすく保護者や地域に発信していますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

- 達成状況の評価に関しては妥当である。
- 保護者アンケートにおいては、「絵本に親しみを持ち」の項目の伸び率が最も高く、肯定的な回答が100%であった。
- 親子や幼小のつながりが子どもたちの心の豊かさや経験の積み重ねに直結していくよう、多様な教育環境を整えていく。
- 教育活動やその取り組みから、幼稚園や小学校、中学校のつながりの深さを感じた。今後も協力しながら、地域の子どもたちを育ててほしい。

## 3 今後の学校運営についての意見

- 教育活動全般について、教職員が熱心に取り組んでいることが見て取れる。今後も幼稚園と保育所・小学校・中学校、そして地域が連携し、それぞれの課題を共有しながら、共に育ち合うことができるよう教育活動を進めてほしい。
- 日々、子ども・保護者・教職員が挨拶等をきっかけに、コミュニケーションを取り合い、しっかりとつながり合うことが重要である。